

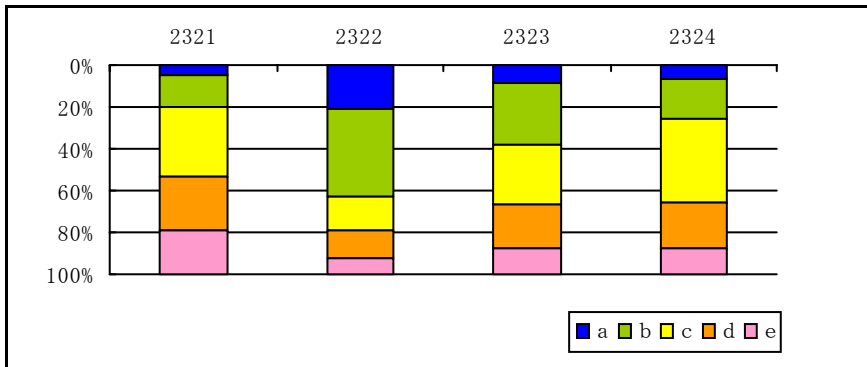
方向 ひとやものの円滑な流れを支える、安全・快適で環境に負担の少ない総合的な交通体系を構築し、市民生活の向上、都市活動の活性化を促す。
 このため、公共交通の優先を基本にした、だれもが歩きたくなる「歩くまち・京都」の考え方を踏まえ、交通需要管理施策(TDM施策)をはじめとして、社会経済動向の変化に応じた新たな交通政策の検討などに取り組みながら、地下鉄や道路等の整備を進める。

評価
C (c) 客観指標については、全7項目のうち京都高速の整備に関する項目でd評価であるが、油小路線ランプ整備に関する項目など4項目がa又はb評価であり、全体としては良い状況である。
 市民生活実感については、全4項目のうち近隣都市間交通網に関してはb評価であるが、広域交通網に関する2項目ではc評価であり、全体としてはどちらとも言えない状況である。
 客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的はそこそこ達成されていると評価する。

○政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価 **b** (b)

2321 自転車等駐車場の収容台数(台)	40361	b (b)
2321 道路延長規格改良率(%)	57.5	c (d)
2322 (準)バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数の割合(%)	34	c (b)
2323 事業進ちよく(油小路線(直線区間)ランプ整備)(百万円)	775	a (-)
2323 事業進ちよく(新十条通ランプ整備)(百万円)	41	d (-)
2324 京都観光の感想(%)	19	a (-)
2324 観光客公共交通利用割合(%)	70.4	b (-)

○市民生活実感評価 **C** (c)



※ 市民生活実感調査
 答a: そう思う
 答b: どちらかというと思う
 答c: どちらとも言えない
 答d: どちらかというと思わない
 答e: そう思わない

2321 市内の道路は安全・快適である。	d (d)
2322 鉄道網や道路網が発達しているので、近隣の都市へ出かけるのに便利だ。	b (b)
2323 京都は交通網が充実しているので、外国や国内各地との行き来がしやすいまちだ。	c (c)
2324 公共交通機関を利用する人が増えている。	c (c)

<参考>この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	都市内の交通網の整備	評価:
2321 概要	「歩くまち・京都」の考え方を踏まえ、安全・快適な歩行空間を確保するとともに、公共交通機関や自転車の利用しやすい条件を整備し、自動車交通に過度に依存しない公共交通優先型の歩くまちを目指した交通網を整備する。	C (C)
施策名	都市圏内の交流を支える交通網の充実	評価:
2322 概要	都市圏内の交流を支える、地下鉄をはじめとする鉄道網、道路網の充実により、都市間交流の円滑化、市民生活の向上とまちの活性化を図る。	B (B)
施策名	広域交通網の充実	評価:
2323 概要	市全体のまちづくりの在り方を念頭に置きながら、都市圏内外を結ぶ自動車専用道路網を形成するとともに、広域高速道路網、広域高速鉄道網構想へ対応し、都市活動の活性化を図る。	B (B)
施策名	新しい交通政策の確立	評価:
2324 概要	地域の住民や事業者、その他の関係機関が一体となって、自動車交通の抑制や平準化を図る。 また、必要に応じて実験的な取組を実施しながら、安全・快適で効率の良い、人や環境にやさしい交通体系の実現を目指す。	B (B)